

平成30年度 第1回越谷市総合教育会議

日時：平成30年11月20日（火）

13時30分から15時20分

場所：越谷市役所本庁舎5階 第二委員会室

次 第

1. 開会

2. 協議事項

- (1) 平成31年度教育行政における重点的な取組みについて
- (2) その他

3. 閉会

出席者

市長	高 橋 努
教育委員会委員長	住 田 俊
教育委員会委員長職務代理者	堀 川 智 子
教育委員	進 藤 秀 子
教育委員	荒 木 明 子
教育長	吉 田 茂

欠席者 なし

会議に出席した者の職氏名 別紙出席者名簿のとおり

平成30年度 第1回越谷市総合教育会議 出席者名簿

1. 構成員

職名	氏名
市長	高橋 努
教育委員会委員長	住田 俊
教育委員会委員長職務代理者	堀川 智子
教育委員	進藤 秀子
教育委員	荒木 明子
教育長	吉田 茂

2. 関係職員

職名	氏名	
教育総務部	部長	永福 徹
	副部長（兼）生涯学習課長	福田 博
	教育総務課長	渡辺 真浩
	スポーツ振興課長	八木下 太
	図書館長	横山 みどり
	生涯学習課 調整幹（兼）科学技術体験センター所長	小林 中子
	生涯学習課 調整幹	中野 聡
	教育総務課 副課長	並木 智史
学校教育部	部長	瀧田 優
	副参事（兼）学務課長	岡本 順
	副参事（兼）給食課長	石川 智啓
	副参事（兼）教育センター所長	鈴木 雅彦
	学校管理課長	紺野 功
	指導課長	山口 徳明
	学校管理課 調整幹	齋藤 道雄
	指導課 調整幹	青木 元秀
	教育センター 調整幹	原田 肇子

3. 事務局

職名	氏名
市長公室 政策担当部長	高橋 成人
市長公室 政策課 副課長	山崎 喜久
市長公室 政策課 技師	平井 晶子

○司会 ただいまより平成30年度第1回越谷市総合教育会議を開会いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます市長公室政策担当部長の高橋でございます。よろしくお願いいたします。

初めに、資料の確認をさせていただきます。次第、出席者名簿、資料1「越谷市総合教育会議運営規程」、資料2「平成31年度教育行政重点事業一覧表（予算要求段階）新規・拡充事業抜粋版」、資料3「平成31年度教育行政重点事業一覧表（予算要求段階）」でございます。不足等はございませんでしょうか。

〔「なし」と言う人あり〕

○司会 それでは、総合教育会議の主催者であります高橋市長からご挨拶を申し上げます。

○高橋市長 皆様、こんにちは。本日は、大変お忙しい中、平成30年度第1回越谷市総合教育会議に御出席をいただき、まことにありがとうございます。

今年6月に発生した大阪府北部地震により、小・中学校のブロック塀が倒壊する事故が発生したことから、本市では、小・中学校をはじめ市が保有する施設について緊急調査を行いました。その調査におきまして、安全性が懸念されるブロック塀等を有する施設については、改修等に要する経費を9月補正予算に計上し対応することといたしました。

今後、このような緊急時の対応も含め、皆様から御意見をいただきながら、よりよい教育環境の整備を続けてまいりたいと思っておりますので、一層の御指導・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、平成31年度教育行政における重点的な取組みにつきまして、皆様と活発な意見交換を行い、今後の教育施策に生かしていきたいと考えております。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。私の御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 それでは、初めに事務局から2点ご報告がございます。

資料1の越谷市総合教育会議運営規程をご覧ください。越谷市の総合教育会議につきましては、この規程に基づき開催をしております。昨年度第2回の会議でもご説明させていただきましたが、今年度から事務局が市長公室秘書から市長公室政策課に変更となっております。それに伴い、規程の裏面、第7条につきまして、今年度4月から変更をさせていただきます。

続きまして、資料1の2枚目、越谷市総合教育会議傍聴要領をご覧ください。総合教育会議の傍聴につきましては、この要領に基づき会議の開催予定時刻までに受付手続き

を済ませることとなっておりますが、会議開始後であっても、会議の進行に支障がないと認められる場合には傍聴を許可してまいりたいと思います。

つきましては、「1. 傍聴する場合の手続き」の(1)の最後に、「ただし、会議開始後も、会議の進行に支障がないと認めるときは、同様の手続きにより、入室することができます。」の一文を追加させていただきたいと考えております。

以上、2点ご報告とさせていただきますが、ご了承いただきたいと存じます。

本日の総合教育会議につきましては、非公開とすべき事項はございませんので、公開とし、傍聴につきましても許可したいと思いますがよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○**司会** それでは、本日の会議は公開とし、傍聴を許可したいと存じます。

本日、傍聴希望者はいらっしゃいますか。

○**事務局** 傍聴希望者はいらっしゃいません。

○**司会** 傍聴については、あらかじめ許可をしておりますので、この後、傍聴人がいらっしゃいましたら、適宜誘導をお願いいたします。

それでは、協議に入らせていただきます。

協議事項(1)平成31年度教育行政における重点的な取組みについてでございます。

はじめに、配付資料に基づき、基本目標ごとに教育委員会から説明をさせていただき、皆様の御意見をお伺いしてまいりたいと存じますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、「基本目標1. 学校教育」について、教育委員会から説明をお願いします。

○**瀧田学校教育部長** それでは、教育振興基本計画における3つの基本目標ごとに、平成31年度に重点的に取り組みたいと考えている内容についてご説明いたします。

お手元にA3判横の「資料2」と書いてあるもの、それからA4判の「資料3」と書いてあるもの、2種類の資料をお配りいたしました。A3判横の資料は、重点的な取組みのうち、主に新規及び拡充して行う取組みについて基本目標ごとにまとめたものでございます。A4判縦の資料は、重点事業の内容について、継続事業も含めて詳細に記載したものでございます。

本日は、A3判横の資料をもとに主に新規及び拡充する取組みについてご説明いたしますので、あわせてA4判縦の資料もご参照いただきながらご協議いただきたいと思います。

はじめに、「基本目標1. 生きる力を育む学校教育を進める」についてです。こちらは、学校教育の分野における取り組みとなっております。

「施策の方向1. 自立して生きていくための基礎となる確かな学力を育む」では、

「①時代に即した学校教育の推進」として、ICTを活用した教育の充実を図るため、プログラミング教育導入へ向けた研究及び指導計画モデルの作成など、校内系ネットワークを活用した児童・生徒の学力及び情報活用能力の向上に努めます。また、学校図書館の充実を図るため、学校司書の効果的な配置など、学校司書の効果的な活用に努めてまいります。

「②指導内容の充実と指導方法の工夫改善」として、学力調査等の活用を図るため、効果的な指導事例の紹介や越谷市検証テストを実施するなど、各種学力調査の問題、結果を活用した指導内容の研究及び指導方法の工夫・改善に努めてまいります。

「③伝統文化を尊重し、国際性を育む教育の推進」として、小・中学校における英語教育の推進と語学指導助手の活用を図り、新学習指導要領の移行措置に対応するよう、小学校外国語科の実施に向けた環境整備に努めてまいります。

続いて、「施策の方向2. 自立して生きていくための基礎となる健康な心と体を育む」では、「④安全教育の充実」として、交通安全・防犯教育の充実を図るため、合同点検に基づく危険箇所の改善に向けた取り組みへの支援を行うなど、学校、保護者、地域の連携による通学路の安全確保に努めてまいります。

「⑤教育相談の充実」として、教育相談体制の充実を図るため、幼稚園、保育所、認定こども園との連携による就学相談を実施するなど、原因や内容が複雑化し、長期化する教育相談への適切な対応に努めてまいります。

「⑥学校給食の充実と食育の推進」として、食に関する指導の充実を図るため、就学時説明会において朝食に関する講座等を新たに実施するなど、食育事業の推進に努めてまいります。

続いて、「施策の方向3. 信頼される質の高い教育環境をつくる」では、「⑦教育支援体制の充実」として、多様な就学機会への支援を図るため、新入学児童・生徒に対する学用品費の入学前支給を拡充実施するなど、就学援助制度の円滑な実施と適切な運用に努めてまいります。また、特別支援教育支援員の増員及び効果的な配置を行うなど、児童・生徒の豊かな学校生活と円滑な学校運営のための支援に努めてまいります。

「⑧義務教育施設の整備と充実」として、安全な学校施設の整備と充実を図るため、川柳小学校校舎の増築を実施し、児童数増加に伴う教室不足に対応してまいります。

「⑨地域に根ざした特色ある学校づくり」として、学校評価の充実を図るため、学校運営協議会を新規に設置し、コミュニティ・スクールの推進に努めてまいります。

以上でございます。

○司会 ただいま説明がございました「基本目標1. 学校教育」に関してご意見はござ

いますでしょうか。

進藤委員さん、いかがでしょうか。

○進藤委員 次年度のこのような重点施策の話題となる時期になりますと、随分たくさん
の事業があるなとも思います。重点施策というだけでこれだけあるんですから、
実施されている事業といたらどれだけあるんだろうとも感じております。

事柄の性質上、単年度で終わるものはほとんどないと思いますので、この重点施策に
つきましても、大半が継続であったり拡充であったりということに当然なっていくんだ
ろうなと思っております。

そのような中で、今回唯一、新規事業ということで、学校、保護者、地域の連携によ
る通学路の安全確保の実施というものがございますが、今回はこれに関して感じたとこ
ろをお話ししたいと思います。

この事業は、今年の春に起きました新潟での悲惨な事件を受けてのことだそうですけ
れども、この事業が今さらのように新規とされることは変だと思いました。恐らく個々
の場面であったり、一定のケースにおいては、こういった形で関連する機関が連携する
ことというのは実際あったんだろうと思いますけれども、今回は通学路の安全確保とい
う括りの中で、基本的な連携のための枠組みをつくることで、個々の機関が単独で動く
よりもより高い安全性を図ることを目指しているところがポイントとされているのでは
ないかと見ております。

子どもさんにとっても、親御様にとっても、学校に行っているから安心だよ、とい
うのは当たり前過ぎるぐらいの感覚であって、現に、例えば耐震の工事であっても、ほ
かの施設に先駆けて学校での実施をしていただけていますし、先ほど市長のお話にあり
ましたとおり、ブロック塀の点に関しましても、いち早く対応して下さっております
ので、安全の確保という意味では、皆さんの心配に対して、最大限市としても対応して
下さっているのかなと感じております。

今回のこの通学路の確保に関しましても、学校の中だけではなくて、そこに行く、あ
るいは帰る過程の中でも、同じように非常に高い安全性の確保が図れるようになること
を期待しておきたいなと思っております。

また、この通学路のことに限らず、一つのことについて、市長部局であったりとか、
教育委員会であったりとか、さまざまな部署が会する機会というのはあって、実際には
個々のケースで連携をとっている場合はあるんだろうなとも思いますけれども、発生頻度
の高い問題でこういった大きな括りができるものに関しましては、やはり事業として立
ち上げるということもあるのかもしれないし、大きな基本、枠組みをつくっていただ

いて、対応マニュアルをつくっていただくなどしていただけたら、対応のばらつきなどはなくなって、同じ労力でも大変高い効果を上げることができるのではないかなと感じました。

○司会 住田委員長、何かございますでしょうか。

○住田委員長 私はこの前、市制施行の60周年記念イベントに参加させていただきました。それで、これは考えないといけないと非常に思ったのが、梶田先生のお言葉だったんです。越谷市で科学者を育ててもらいたいといったようなご発言があったのですが、こちらの資料の6ページに該当するのかなと思うんですけども、今非常によくやっておられるなと思う場所がミラクルを中心として幾つかありまして、ああいう子どもさんがいつでも自由に入出りできるような場所をもっともっと拡充していただきたい。

また、うちのスマートフォンにもいろんな事業の案内が届いてくるわけでありましてけれども、人数が限られるので、もっと自由に行けるような場面や児童館などを、もっともっと充実させていただければなど。それが、恐らく越谷の科学教育を充実させていくことになり、人材を輩出することができるんじゃないかなと。あの言葉は、私は非常に重要な言葉だと受けとめました。

あとは、時代の要請でいろいろ考えなくちゃいけないんですけども、若い教員もいれば、かなりベテランの教員もいる中で、必ずこれからやらなくてはいけないのは、プログラミングです。ある大臣がパソコンを打ったことがないというようなことでは困るわけですね。そういう中で、教員の研修を充実してやらないといけない。同じようなことが言えるのが外国語教育です。こういう点の教職員の研修を、これから本当に真面目に充実していかねばならない。

これは全部予算が伴う話でありますから、非常に難しいだろうと思いつつ、何とか全てを継続、それから拡充、新規とするしかない。場合によっては統合すべきものは統合していくような方向でやるとか、何かやらないと、市の予算の大体1割ぐらい前後というのが今までの状況だろうと思うので、もし1割しか使えないのならばそういう方向でもっと特化して、事業の統合などを進めなくてはいけないんじゃないかなと思っています。

それから、各学校の特色を出すような話もあるが、校長が自由な発想で取り組めるような、余裕のあるような状況をつくってあげたい。これは非常に難しいんですけども。

この前、新聞等に出ていて話題になったんですけども、今、越ヶ谷小学校では、東越谷小学校の校長先生をやられていた田畑先生が漫才を学校教育に取り入れてコミュニ

ケーション能力を高めるといふのをやった。それがもとになって、いじめであるとか不登校であるとか、そういうようなことの改善につなげるとか、そういったような新しい取組み、創造性のある教育を進めようとしている。本も出されているようでありまして、何かそういったものが学校ごとに自由にできる、そういうことも取り組んでいただければなと思っています。

○高橋市長 学校教育については、小学校、中学校ともにいろんな問題が本当に重いということで、議会で、こういうものも学校教育で取り入れてやって欲しいというような提案や希望等もいろいろ出ているので、本当に大変だと思うんですね。時間は限られていますから。そんな中でどうやって子供たちの教育を充実させていくかということでは、本当に私はいつもご苦労だと思っているんですが、特に小学校の場合は、とにかく勉強が大事だということをしっかりと児童に教えるような教育を進めていかななくてはならないと。そういう中で私は、子供たちの協力体制を育むようなことを徹底してやっていく必要があるんじゃないかと思っています。

お互い協力し合って勉強を楽しくやろうという教育を進めていく。それには先生の指導の仕方が一にも二にも大事なことじゃないかと、子供が夢と希望を持てるような教育を先生はどうやってつくっているのかなということをいつも感じます。

特に中学校では、もうその次の高校進学がありますから、具体的な夢と希望をできるだけ個人個人にしっかりと持ってもらうと、高校はどこでもいいやというんじゃないで、工業系、商業系、あるいは進学のための普通教育の高校とかさまざまな進路がありますよね。越谷にも、普通の高校が多いですけども、総合技術高校もあり、特に総合技術高校なんかは、専門的な教育を目指した服飾、栄養などいろいろある。中学校でできるだけそういう目標や夢の持てるような教育をして、一人一人の目標や夢を把握できるようにするというのは大事だと思う。

もう高校は当たり前、ほぼ高校進学だというような状況にあるけれども、でもみんな夢を持って行っているのかということとそうじゃない。相変わらず偏差値教育がまだ根底にあるよね。だから、これはある程度はやむを得ないとは思っただけ。夢と希望の持てる進路をちゃんと指導するということが大事なんだけれども、そういったきめ細かな教育が中学校で行われているかということをお聞きしたい。

いろんないじめとか、パワハラも今問題視されているけれども、まずは子どもたちに、夢と希望の持てる進路、自分はこういうところに行きたいんだという進路をできるだけ早く持ってもらえるような教育が私は大事だなと思います。

そういった点でどのように今教育委員会として取り組んでいるか、お聞かせ願いたい

など。

○吉田教育長 夢と希望の持てる教育、本市の教育プラン自体が、誰もが生き生きと輝く越谷教育プランということになっておりますので、学校では現実的なキャリア教育というものを行っている。

例えば中学校1年生の段階では、「なるには」とよく言うんですが、こういう職業になるにはどうしたらいいんだということを、図書室にそういう本がありますので、そういったものを調べながらやると。

それから、2年生で望ましい職業観を持たせるために、1年生で、例えばコンビニなんかで実際に働かせてもらって、2日間ですけど職業体験するという社会体験チャレンジをツーデイズでやっている。あるいは、今、幾つかの場所で発掘調査をやっているんですけども、それに子供たちが参加して、そういった体験をするというような形で職業体験をしております。

2年生になると、上級学校調べですかね。実際に学校訪問なんかをして、自分の進学するときにどういう学校があるかというところを、直接学校に行ってお話を聞いたりするような体験活動もしております。

今のキャリア教育というのは、いわゆる生き方教育ということで、望ましい職業観を持たせると同時に、将来、自分が社会貢献するんだという、働くことによって社会貢献につながっていくんだという自覚を持たせるような教育を総じてキャリア教育というんですが、進路指導の中でそれを1年、2年、3年と一貫してやっているということがあります。

本市は現在、小中一貫教育に取り組んでいるわけですが、その中で自己肯定感の高揚を図るという一つの狙いがございます。学力の向上と自己肯定感を高めるといものと、中1ギャップの解消ということを3つの目標にして市内の小中学校全体で取り組んでいるところで、今、これから進めようとしているのは、知識偏重、いわゆる知識だけを教えるのではなくて、授業を通して自己肯定感を高めていこうということで、今、市内の小中学校では自己肯定感の高揚について取り組んでいるところでございます。

先ほど、委員長さんからもお話しがありましたけれども、学校が特色ある教育をもう少し進めたほうがいいのかというお話で、東越谷小学校の漫才教育というのがありましたけれども、平方中学校区、桜井小学校と平方小学校と平方中学校の3校で取り組んでいる「つづれVA!」、「かたれVA!」というような活動を通して、自分の意見をきちんと相手に伝える、あるいは自分の意見を書いて思考力を深めていくというような取組みも実際にしております。

それから、大袋中学校区、これは大袋小学校、大袋東小学校、そして大袋中学校ですが、「YKB」という取り組みをしています。これは読む、書く、文章力の頭文字をとって「YKB」と言っておりますが、それから一步進めて今は「YKC」、このCはコミュニケーションということなんですけれども、こういう活動に取り組んでおります。

実際にこの前、統一発表日というのがあって、大袋中学校区の小中一貫教育の取り組みの発表があったんですけれども、子供たちが無理なく、2人で話し合いをするのを提案学習、あるいはグループ学習というんですが、見ていただきました。本当に無理なく話をしながら授業を進めている様子が見てとることができました。

今、市長さんがおっしゃられたような、いわゆる知識の習得だけを目指して授業を行うというようなことは、どの学校もそれだけではやっていない。今言ったようなそれぞれの中学校区で非常にユニークな取り組みを進めながら、思考力とか判断力とか表現力、あるいは自己肯定感といったものを高めるような取り組みを進めているところがございしますので、私は非常にいい方向に進んでいるのかなというふうに思います。

ただ、あまりそればかりやっていると知識、理解がおろそかになってしまいます。最終的には高校、大学と入試が、就職するときにも就職試験がございします。そういったところの肝心の基礎的、基本的な知識、技能等を習得されていないということになると、それはその先に進めないということになりますので、そういったことも合わせながら教育を今進めているところでございします。

ついでにお話しさせていただきたいんですけど、今、私が一番課題に思っているのが、委員長さんのお話にもありましたけれども、いわゆる英語科、小学校の外国語科が教科化されたということがございしますが、私の息子が今私立の高校に勤めているんですけど、高校ではやっぱり英語をかなり重視しているところがございします。

大学入試や高校入試でも英検等の資格が考慮されている場合もございしますし、新センター試験等に英検等の資格を加味する方向で検討中であるということも聞いております。センター試験はやがて2020年から大学入学共通テストと名前が変わりますけれども、ここに英検等の資格を加味して評価がされるというような話も聞いておりますし、来年実施される国の学力・学習状況調査には、英語のリスニングというのは聞いたことがあると思うんですけれども、話し方、実際に子供がしゃべったものを評価するというテストも実施されます。

どうやってやるんだというふうにお思いでしょうが、器具を40人分国のほうから学校に貸与しているんです。それを通してしゃべる力がどのぐらいあるのか、英語を話す力がどのぐらいあるのかを試すテストを来年実施するという方向で今動いております。

したがって、ここに拡充ということであげさせていただいていますが、中学校は今学校ごとに1名のALT、15校で15人配置しているんですが、小学校で毎時間ALTがつけるように配置するとした場合は、25人必要ということで今試算しております。30年度には小学校のALTは17人配置させていただいておりますが、段階的に増やしていく必要があるかなと考えているところでございます。

同時に、小学校3年から6年生は、新しい学習指導要領の完全実施になりますと1時間コマ数が増えますので、3年生は1時間少ないんですけど、4年から6年までは月曜から金曜まで全部6時間になってしまう。そうするといろんな会議とか委員会活動とか、一体どこでその時間を生み出すんだらうということが今問題になっていて、カリキュラム・マネジメント検討委員会を立ち上げて検討中ということでございます。幸いなことに夏休みの利用も、エアコンを設置させていただきましたので、その活用も図れるかなということも含めて今検討をしているところでございます。

それからもう一つ、これも困っているのが特別支援教育支援員の配置というところであげさせていただいているんですが、いわゆる特別支援学級に在籍する児童・生徒及びその学級数の経年変化を見ると、平成22年度には245人で47学級だったんですが、平成30年度には1.7倍、427人で78学級になっているんです。1年間に30人ぐらいずつ増えているペースになりますので、この先この状態で増え続ける可能性はあると感じております。

しかしながら、児童・生徒の総数は、平成22年度は2万7,397人だったものが、平成30年度には2万6,450人となっていて、総体的には減少しているんです。要するに総体的には減少しているけれども、特別支援学級に在籍する児童・生徒数は、1.7倍に増えているわけです。軽度の障害も含め、特別配慮を要する児童・生徒の数は通常学級においても増加しておりまして、特別支援教育支援員等の配置の拡充、さらには発達支援訪問指導の充実、これも含めて段階的に周辺教育環境の整備を図る必要があるというふうに考えております。

教師の配慮を要する、いろんな子供に当然配慮をするんですが、量が増えているということがあろうかと思えます。こうしたことの支援を指導力の向上も含めて、あるいはそういう補助職員をつけるということも含めて、こういった周辺環境を整備していかないと大変きつくなるかなあというふうに思っています。

また、県の目指す特別支援学級配置校の設置率は80%ですが、本市の設置率は45校中27校、60%にとどまっております。教育委員会は100%を目指してはいるんですが、今のところ空き教室や指導者等の確保などの課題が残っていることから、今すぐに

ということは難しいと思っておりますが、このところで着実に配置校の数を増やしているところでございます。

これは、以前は認可制度になっていたんですけど、今は届け出制度になっておりますので、以前よりも配置することは容易になっております。これは大きな課題であると、今日も部長、課長を集めて話をしたところでございます。

それから、いわゆる外国人労働者の受け入れ拡大に向けて入管法が改正される、これが閣議決定されましたけれども、これで受け入れ見込み人数は、これがそのとおりになるかどうかわかりませんが、2019年の1年間に3万3,000人から4万7,000人、5年間では26万から34万人とも言われている中で、日本語指導が必要な児童・生徒の増加が予想されております。ちなみに外国籍の児童・生徒数は、平成22年度には74人だったんですが、平成30年度には291人に増えております。このことに伴い、今後、日本語指導員の充実をさらに図っていく必要があると感じております。

さらに、教育環境の整備ということであれば、気になっているのが働き方改革でございます。本市では、市長さんのご理解のもと、全職員対象のストレスチェックの実施を既にしておりますし、出退勤管理システム、これも導入させていただきました。閉庁日の設定、さらには留守番電話の設置、それからスクール・サポート・スタッフ制の試験的導入、これも認めていただきました。

そんな中、気になっているのが、中央教育審議会の学校における働き方改革特別部会、こういうのが設置されているんですが、その中で今浮上してきていると言われているのが、変形労働時間制、これを導入するかどうかはまだわかりませんが、導入を検討しているようでございます。

さらに県は、今年度中に作成して次年度より本格実施するとしておりますが、埼玉県の学校における働き方改革基本方針、これを今作成中でございます。

これらについては引き続き注視していかなくてはならないと考えております。

非常に多くの課題が山積しておりますが、こうしたところを着実にクリアしていかないとなかなか先へ進めていけないという状況がございますので、よろしく申し上げます。

○高橋市長 教育長のお話で、子どもの英語教育、特別支援教育、外国人の児童・生徒の支援と、中身を分析していくとそういう多重的な要素があるということを感じました。それぞれみんな違うんだよね。10人いれば十人十色だからなかなか対応していくのは難しいんだけど、とにかく子どもたちが目を輝かして勉強しよう、将来何になりたいんだというような気持ちを持たせることが先生としては一番求められているんだと。

だから、そのためには人が足りないということにつながっていくんだけど、色々聞いていくと特別支援学校も英語教育もそうなんだけど、どうやって子供たちの個性を見出すかというのは昔からの課題。これが本当に今どんな形でやっているのかなあというのを色々な面から今聞くと、ますます複雑になっちゃうんだけど、先生の苦労を深く理解しなくちゃいけない。今の先生はどうやっているんですかね。

○**瀧田学校教育部長** 先ほど教育長からありましたけど、小中一貫で小学1年生から中学3年生まで1人の子供を、今までは小学校は小学校、中学校は中学校とやっていたものを、1つのブロックの中で、1人の子供を9年間で見てくださいという中で、キャリア教育として、小さいときから、将来の夢は何なのとか、高校はどういう高校に行きたいのとかというのをずっと積み上げていくよう、色々な活動をしています。

色々な活動や体験を小さいときからやらせるというのが、将来の夢だったり、つきたい職業だったりというもののきっかけづくりになるんだろうなというところで、宿泊学習がいろんな学年に入ってきたり、低学年ですと、町探検といって、授業時間を使って先生が引率して色々なお店を周ったりスーパーに行ってみたり、そういうことを本当に小さいときから積み上げていくんですね。

ですから、色々なことに興味を持って、色々な体験をして、その中で自分はこういうのをやってみたいなと思わせるということ、一人一人の教員が意識しながら子どもたちを見ているというところだと思います。

中学校に行くのと進学がありますから、小学校で積み上げてきたものを基にして、じゃあそれを実際に自分の職業にするにはどういう学校に行かなきゃいけないのか、あるいはどういう資格をとらなきゃいけないのか、少しレベルを上げて指導をする。それを進路指導・キャリア教育という言葉でまとめているが、その集大成が受験になってそれぞれの進路に進んでいくという状況だと思います。

これからは、高校に行くのが、市長さんがおっしゃるようなほとんどというわけですから、中学校までの指導がどうだったのか、次に行く高校に指導要録の写しを送ったりはするんですけども、そういうところを中・高連携みたいところで、もっともっとやっていかなきゃいけないんだろうなということは考えたりはします。

○**吉田教育長** 夢を一つのキーワードにして教育振興基本計画を考えるときに、夢というのはどうなんだろうという話も出たこともあるんですけど、小学生は割と夢を持ちやすいんです。しかし中学校になるといろんな事情が分かってきます。半分大人ですから。夢を持つことにやや自信を失っているということがああるんですね。ある時期夢を持つことが怖くなった、今は夢をまた持てるようになったという商業のフ

レーズがありましたけれども、一口に夢といってもなかなか難しい。

夢や希望や目標というふうにかえてお話をしているんですが、この夢を持たなくなるというのは、すなわち自分自身に自信がなくなっていくということがあると思うんですね。だから今、授業では、小中一貫教育の中で、いわゆる自分が自分であっていいんだとか、間違ってもいいんだ、間違えることの方が大事だ、間違いをそのままにしておくことがいけないんだというような学びをすることによって子供たちに自信をつけていこうと、そういう授業をすることによって自己肯定感を高めていこうというようなところで進めているところです。なかなか簡単にはいきませんが、それをできるだけ全ての教員でやってもらうようにこれから進めていきたいと考えておりますので、ぜひ何年後か成果を見届けていただければと思います。

○高橋市長 この問題、最後に1つ聞きたいんだけど、特に中学校において、どうしても40人学級になっていると思うが、それぞれその子供たちの特徴とか、得意とするものとか、担任の先生がクラスの40人全部つかんでいるか。この子はスポーツだとか、文化部、書道だとか絵画だとか何でもいいが、とにかく担任の先生がその子供たちのいいところを1つ2つはちゃんとつかんでいてほしいんだよね。それぞれ違っていいわけだ。違っていいんだけど、その子どもたちの特徴なりいいところをちゃんとつかんで、あなたはこれが得意だよね、やればできるんだよねという感じで教えていくことが私は一番大事なんじゃないかと。

全てがオール5ってそうはいないよね。オール5じゃなくていいわけだから、何か得意とするものを必ずつかんでほしいんだよね。それでその子に自信を持たせるということが私は大事なんじゃないかなと思いますので、そういう点に関してどうですか。今の教育の中で。

○吉田教育長 先ほど申し上げたように、授業の中で自信を持たせるためには、やっぱり認め励ますということが大事になってくると思いますが、じゃあ一体どういうときに認めるのか。子供が努力もしていないのにやたらと認めて励まして、子供は一切そういうのはよしとしないので、その観点を明らかにして、次の校長会で示そうと思っています。こういう観点を進めていけば、子供の自己肯定感は高まると考えていますよ、これを参考にそういう授業を検証して、絶えず授業改善に努めてください、というメッセージを次の校長会で流す予定にしております。

○高橋市長 さまざまな要因があるんだけど、やっぱり子供のいいところをちゃんと認めて、それが自信につながっていくと私は思いますので、ぜひそういうことをお願いしたいと思います。

○住田委員長 就学援助費が、資料4ページに書いてあるんですけども、何らかの経済的な理由によって就学困難と見られる児童・生徒に対しての事業ですが、随分たくさんの方の児童・生徒がその対象になっているというのが私は非常にショックなんですね。この辺をこれからますます考えていかないといけない。

それから、将来の夢をといても、貸付制度を利用して、高等学校、あるいは大学に行くといったような問題も、まだまだ不十分なんじゃないかなとちょっと気になっているところです。

私も田舎から都内の大学へ出るときに、奨学寮に入れたから来られたことを考えると、援助を要する児童・生徒が高等学校に行く、それから大学に行くといっても、給付制度などをもっと充実してやらないと夢も希望もだんだんなくなっていく、そんなふうになっている次第です。

○司会 ほかにご意見はいかがですか。

〔「なし」と言う人あり〕

○司会 ないようですので、次に「基本目標2. 生涯学習」について教育委員会から説明をお願いします。

○永福教育総務部長 それでは次に、「基本目標2. 生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する」についてご説明申し上げます。こちらは、生涯学習の分野における取り組みでございます。

まず「施策の方向1. 生涯を通じた学習活動を推進する」では、「①自然体験や科学体験の充実」として、科学技術体験センター事業の充実を図るため、子供から大人まで幅広い方を対象とした各種教室・講座を実施するなど、ライフステージに応じた科学体験事業の実施に努めてまいります。

「②図書館の充実」といたしまして、図書館機能の充実を図るため、児童書の充実やLLブックの収集など、資料の計画的な収集に努めてまいります。また、図書館文化活動の推進を図るため、図書館寄席よせの開催と関連資料の貸し出し促進を行うなど、市民文化の向上に努めるほか、子ども読書活動の推進を図るため、中学生によるお薦め本の紹介など、学校等との連携と子供が読書に親しむ機会の提供に努めてまいります。

続いて、「施策の方向2. 芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承する」では、「③芸術文化活動の推進」として、市民との連携による発表機会の充実を図るため、特別賞を表彰する第20回越谷市美術展覧会を実施するなど、成果発表の場の提供に努めてまいります。

「④特色ある地域文化の振興と普及」として、伝統文化の振興と継承を図るため、郷

土芸能体験教室における開催内容を充実するなど、伝統芸能の普及に努めてまいります。

「⑤文化財の保存と活用」として、大間野町旧中村家住宅の利活用の促進を図るため、施設に隣接をする駐車場を整備するなど、利用環境の充実に努めてまいります。

基本目標2につきましては以上でございます。

○司会 ただいま説明のありました「基本目標2. 生涯学習」についてご意見等はございますでしょうか。

荒木委員さん、いかがでしょうか。

○荒木委員 生涯学習に関しましては、ただいまご説明いただいたとおりですので、日ごろ感じておりますことを幾つか申し上げたいと思います。

はじめに、施策の方向1の「生涯を通じた学習活動を推進する」についてですが、人生100年時代ということで、これまでの、教育から仕事、そして引退へという3つの段階へ移っていく形のスリーステージの人生から、これからは教育と仕事とさまざまな活動とを組み合わせたマルチステージの人生になるということで、豊かな生涯学習はますます重要になると思います。

中でも、先ほどのご説明にもありましたように、科学体験授業の実施につきましては、先ほど住田委員長もおっしゃっていましたが、ここ越谷市には、ノーベル物理学賞を受賞された梶田さんがお住まいで、越谷市には科学好きな子供たちが育ててほしいとお考えのようでもありますので、そういった極めた方にしか見えないことがきっとおありだと思うので、子供たち、そして大人までの幅広い方の科学教育の充実に高い知見を生かしていただきたいと思っております。

次に、施策の方向2. 「芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承する」についてですが、毎秋に市内の小・中学校の合唱コンクールがありまして、私も保護者として毎年聞くのを楽しみにしており、先日も参りました。子供たちはそれに向けてクラスみんなが一丸となって合唱練習を頑張っているようです。

その会場として越谷コミュニティセンターの大ホールを取り入れている学校も増えています。次いでその市内小・中全ての各学校の代表クラスが一堂に会して2日間かけて同じ越谷コミュニティセンターの大ホールで行うというものもありまして、当日は開場前から保護者も長い列をつくって待っているという、子供も大人も楽しみなものとなっています。

先日、そちらにも参りまして、約1,700席という大ホールのステージにどの子も堂々と立って、ものすごく輝いていて、クラス全員で心をつなげて歌っているのを聞いて非常に感動いたしました。他市に住む友人などに申しますと、すごくいいねと言われま

す。

端的に言ったら健康にいいと言われますし、合唱などは他者との関わりもありますので、こういった越谷市の特色の一つでもある、子どものときのいい経験をぜひ生涯学習の一つとして、合唱その他の音楽活動につなげていけばいいのではと感じております。

さらに先ほどのご説明にも伝統芸能の普及とありましたように、越谷市には埼玉県唯一の屋外の能舞台もありますし、本市だけでなく他市に住む方からも「^{たきぎのう}薪能を楽しみにしているのよ」、「チケットもう買ったのよ」などと言われたりして、PRも効果的に行われてきていると感じています。日本人の心である、そういった伝統芸能をこれからも大切にしていきたいものだと思います。

芸術というのは、偉大な芸術に触れることで、自分たちも何か意義あることを果たするという気持ちを感じ、精神的に起こさせるものなので、芸術に親しまれている市民の皆さんが年々増えてきているとは感じておりますが、もっともっと多くの方が鑑賞したり、自己実現の一つとして発表したりするように進んでいけたらいいなと感じております。以上です。

○司会 ほかにご意見はいかがでしょうか。

教育長お願いします。

○吉田教育長 ミラクルの話のことなんですけど、梶田先生のお話の中に、科学で貢献できるならどんどんやりますよというようなありがたいお話をいただきました。ミラクルではこのところ学校利用に関わるバス代の見直しを図ったけれども、そうすると学校は、じゃあ行かないよというような雰囲気も出てくる可能性もあったところ、所長さんが学校に出向いて調整してくれた。ミラクルで行うイベント等については、非常に工夫を重ねてきておまして、来客数も年々増えているところです。ぜひ梶田先生にお願いして、あそこで講義をしていただけるとありがたいなあなんて思っております。

もう一つ気になったのが、これはNHKの10月13日の9時から放送された「AIに聞いてみた どうすんのよ!? ニッポン3」で健康寿命を取り上げていたんですが、今、ビッグデータの活用が取り沙汰されているんですけども、健康寿命の延伸として何が有効かという問いに、AIがどう答えたんだというのがテーマになっておりました。

結論は、何と「読書」だということなんです。読書については、健康寿命の延伸に効果的だとすることはあっても、マイナスの要素は全くなかったと。ほかには色々なマイナスの要素もついてくるんですが、読書についてはマイナスの要素は全くなかったということのようでした。

ちなみに、読書環境が整っているとされている地域の健康寿命は長いという調査結果も出ているようです。例えば挙げていたのが、山梨県でしたけれども、山梨県は公立図書館の多さが全国で断トツ1位だったということで、健康で長生きも1位という結果が出ているんだそうです。AIが正しいのかどうかわかりませんが、1つそういうデータだったので、挙げておりました。

ちなみに本市は、これも市長さんのお計らいで中央図書室ができましたし、南部図書室も整備されました。1館3室の体制が整っております。したがって人口1人当たりの貸出冊数、これは平成29年ですけれども、5.2冊で県内24位。24位って高くないじゃないかと言うかもしれませんが、蔵書冊数は人口1人当たり1.9冊で、県で62位ということですので、その割には貸出冊数が大変多いということがあろうかと思えます。ちなみに貸出冊数の総数については、県内3位ということになっております。

それから学校図書館、これについて調べているんですけれども、平成29年は1人当たりの貸出冊数が、小・中合わせて21冊になっています。これは年々増えております。

これは、先ほど申しましたけど、1館3室が連携してさまざまな取り組みを積極的に進めていること、さらに学校図書館については、学校での取組みもさることながら、これも御配慮いただいて15名の学校司書を配置していただいている成果が出ているかと思えます。さらに、健康寿命の延伸が期待されると思っています。

○高橋市長 私は、それこそやっぱり人それぞれだから、生涯学習といっても何を高めたのか、千差万別というか十人十色だと思うんだけど、日曜日、地区文化祭をやっていたよね。みんな一生懸命いろいろとやっていますよね。あれらをどういうふうにさらに支援していくか、できるだけいい面を捉えて評価していくやり方が大事だと思う。

10人が10人みんな来いと言ったって来るわけないんだから、半分の人が参加してくれれば最高だと思うんだけど、ああいう活動を地区ごとに少し分析しながら、やっぱりこういうのはいいですねということで、推奨していくことが大事だと思うんだけど、そういう取組みについては、今どんな状況なんでしょうか。地区センターにお任せで、センターの所長会議はやっているんだけど、そういうやった後の評価というか、内々の評価は大事だと思うんだけど、どうなんでしょう。

○吉田教育長 これは非常に難しいところで、教育委員会の所管という、縦割り行政の話になっちゃいますけど、所管ということであるとスポ・レクと公運協、これが主なんですけれども、今、おっしゃっているのはコミ協ですね。そうすると、ちょっと教育委員会の所管とは離れるというところがありますが、ただ、いずれにしてもこの前

60周年記念をやったときにあれだけの人が集まったということが、知事からもすごいねというお話がありましたけれども、やっぱりあれは13地区のそういった取組みというのが大きいんだろうと私は思っております。

市長さんがそれぞれの地域に行って、フリーにお話をしているというところも当然あるわけですが、そういう地区ごとの取組みというのは、中央でどかんと事業をやるのとは違ってかける13になりますので、相当の人数が集まっている。だから、あそこを拠点としてそういった活動を広げていくというのは、これからも私は重要だなと思っております。だから、横の連携を図ることが必要なのだと思います。

○**教育総務部長** 市長がおっしゃったように、毎月、地区センターの所長が集まる会議、それから職員のレベルで集まる会議ということで情報交換はそれぞれできてはいるんですけども、そこに我々が教育委員会の立場で一緒に入らせていただいても、事務連絡で終わってしまうということがなきにしもあらずというところもございますので、市長さんのおっしゃったような趣旨を持ちながら実施していかなければと思います。

○**高橋市長** 全部が全部細かくは見えていられないけれども、絵手紙だとかは非常に大勢の人、しかも高齢者、女性が多いよね。ああいうさまざまな取組みをしている、あるいは書道だとか絵画とかというのを出展しているでしょう。ああいう人たちをさらに励ましていく必要がある。

だから、今、教育委員会かコミ協、どこであるというのを把握しながら、いい意味でさらに伸ばしていくような取組みが大事だと思います。そういった点はどのように取り組んでいるのかなど。まさに生涯学習だから、若い人から年寄りまで、特に年寄りが今多いわけで、年寄りがそういう趣味を生かしてああいう発表をしているとありがたい。だから、それをできるだけ集約しながら、そこにはリーダーが必ずいるわけだから、リーダーをしっかり養成をして拡大、輪を広げていくということが大事だと思いますので、そういう取組みを私はさらにしたいわけです。期待しております。

○**司会** 住田委員長、お願いいたします。

○**住田委員長** 今、市長さん、それから教育長が言われましたけど、23日から26日にコミセンで開かれる市民文化祭に、色々な文化団体が入っていますけれども、文化団体の構成員がとうとう4,000人を割ってしまい残念だという話を聞いたんですけども、今言われた、もっと拡大しなくてはいけないということと逆になってきている。一部の間人だけが特化しているんです。若い人が入ってこないんだというような話も聞いたことがあります。

○**福田教育総務部副部長（兼）生涯学習課長** 文化連盟さんは、昔は4,500人くらいいた

が、最近4,000人を割ったという話も聞くんですけども、ただ、市民文化祭に関しては、団体の内々の発表ではなく文化団体以外の団体、一般市民の方も多く出ていただくというような姿勢でございます。

また、市長さんが文化祭いろいろ回っていらっしゃると思いますが、その中でお聞きするのは、やっぱり発表の機会があってうれしいということですので、今年は地区の文化祭と市民文化祭が1週間ずれていますので、地区に出て、市民文化祭、両方出られるということで大変喜んでいてる声も聞きます。利用されている方は、自分の発表の機会があることが大変喜びだということでございます。

また、評価に関しましてですけども、来年の市展ですが、市長賞、議長賞、文化連盟賞のほかに、賞を増やして受賞の機会を増やしていこうという取り組みを来年に向けて考えているところであります。

○司会 他にご意見はいかがでしょうか。

〔「なし」と言う人あり〕

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、続きまして「基本目標3.生涯スポーツ」について、教育委員会に説明をお願いします。

○永福教育総務部長 それでは最後に、「基本目標3.生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる」についてでございます。こちらは、生涯スポーツの分野における取り組みとなっております。

「施策の方向1.健康・ライフスタイルづくりを支援する」では、「①活動機会の充実」として、スポーツ観戦機会の充実を図るため、東京2020オリンピック・パラリンピックに向けたPRなどの機運醸成活動に努めるほか、プロスポーツ大会やスポーツイベント等の誘致に努めてまいります。

「施策の方向2.スポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の充実を図る」では、「②組織の充実」として、スポーツボランティアの養成と登録拡充を図るため、スポーツボランティア活用団体等への制度のPRや、さいたま国際マラソンのボランティアを募集するなど、ボランティア活動の推進に係る取り組みを進めてまいります。

「施策の方向3.スポーツ・レクリエーション施設の充実を図る」では、「③施設の充実等利用促進」として、地域体育館の利活用の促進を図るため、利用者の安全性に配慮した施設改修や定期的な設備点検等を行うとともに第1、第2体育館の建て替えに向けた基本計画の策定など、地域体育館の修繕を含め環境整備に努めてまいります。

平成31年度に重点的に取り組みたいと考えております内容の説明につきましては、以

上となります。

○司会 それでは、ただいま説明のありました「基本目標 3. 生涯スポーツ」に関してご意見はございますでしょうか。

堀川委員さん、いかがでしょうか。

○堀川委員 ただいまご説明の「拡充」について出ておりますことに関して、私が申し上げるまでもありませんが、国全体が、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて機運がかなり高まっているのではないかと思います。また今回、特にパラリンピックに関して、今まであまり詳しく知らなかった競技の紹介や、アスリートの方たちの紹介などテレビ等であって、今回非常に興味深く見ております。2020年までは自然に盛り上がっていくんでしょうけれども、それ以降も続けてそういった方面にも焦点を当てて盛り上がってほしいなと個人的に思っております。

越谷市に関していいまでも、今回、卓球のTリーグを招致して、プロスポーツを観戦する機会、触れる機会というのが増えたというのは大変ありがたいことだと思っております。

また、いろんなスポーツ誘致に、キャンプ地なんかでもそうですけれども、協力されておまして、市民としてはスポーツに関してすごく意識が高いのではないかなと感じております。

そして、施策の方向2のボランティアに関してなんですけれども、なかなか決まりにくいというのが現状ではないかと思うんですけれども、やっぱり東京オリンピックなんかに関しましても、小・中学生にもボランティアの要請、要請した時点でボランティアじゃないんじゃないのという話もあるんですけれども、何とか支えるということで参加を促すというようなことを聞いております。

私もボランティアで剣道の審判や大会の運営とかやっておりますけれども、その現場にいるところの高揚感とか一体感といいますか、支援する側、主催者側、また応援する観客の皆さんとの一体感というのは非常に貴重な経験だと思いますので、何とかボランティアの魅力もこれから伝えて広げてほしいなと感じております。

この間、県で出している冊子でさいたま国際マラソンのボランティアの方々の紹介や体験談などをちょっと拝見したんですけれども、そういったボランティア活動をして生き生きとした体験をしたというような紹介が、これからは必要なのかなと感じます。

それと施策の3ですが、施設の充実を図るということで、施設を利用させていただいておりますが、細かいところまで修繕等行き届いて、すぐに対応していただいて大変ありがたいなと思うんですけれども、これから施設の老朽化もありますし、維持管理が課

題かなと思います。市にお願いするばかりではなく、競技者の方でも施設の使い方、あるいは維持管理といったことを少し自ら考えていく必要もあるのではないかなと感じます。

というのも、大学の伝統のある施設なんかも、大学側ではこれからあまりお金を出さずに、もう修理しないようなところが増えているようで、お金のかかることは手をかけないという面もありますので、競技者がそこに甘えるだけでなく、自分たちがやっている競技を継続して、また伝えていくためにもそういった施設、環境にも関心を示していかなければいけないのではないのかなと感じております。

○司会 他にご意見はいかがでしょうか。

○吉田教育長 先ほども堀川委員さんからありましたけれども、教育委員会では、するスポーツというのは持っているんですよね。見るスポーツ、支えるスポーツの推進を図っていきたいと考えて、ボランティアもその一つなんですけれども、おっしゃるとおりアルファーズやTリーグなどのスポーツ大会、あるいは各種スポーツイベントの誘致活動に努めてきたところでございますけれども、そんな中、特に東京オリ・パラの練習会場については、予算の確保も含めて幅広い対応が今後必要となってまいりますので、教育委員会のみならず横断的な組織での対応が必須であると考えております。

今、スポーツ振興課を中心に、遅くとも年内にはそういう組織を立ち上げたいと思っておりますので、市長部局の方でも適宜後押しをしていただければと思っております。

東京オリ・パラは、レガシーという言葉がありますけれども、支えるスポーツとして、格好の機会になると考えております。国際的な有名な選手が集まってくるのを直に見ることができるわけですから。オリ・パラ教育を全校挙げて取り組むということになっておりますので、そういう練習会場の誘致が決まった段階では、積極的に声をかけていただければ、子どもたちをそういうところに出すということもやぶさかじゃないでしょう。

○八木下スポーツ振興課長 スポーツ振興課といたしましては、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ポルトガルの卓球の代表チームを軸としたオリンピックの事前キャンプの誘致ということで取り組んでいるところでございます。

現在、卓球の会長さんの来日の日程を調整させていただく中で、基本線といたしましては、先ほどTリーグのお話もありましたように、2月に越谷でTリーグの試合の大会があります。それとあわせの中で、調印等ができれば、越谷市にとっても応援していただいておりますT. T彩たまにとっても、卓球を軸とした形の中でいい連携ができるということで、そこを軸に調整をさせていただいているところでございます。

また、スポーツボランティアの件に関しましても、近年、東京国際マラソンやさいたま国際マラソンのように、学生たちが結構ボランティア活動に参加をしているということで、そういった点も、学校の方でかなり評価をいただいているという状況もあるので、あとはその活動の機会をいかにうちの方が用意していくかということと、学校の授業の中で、どういうふうな形の中で連携を進めていくかということ、その辺が課題となつてございますので、そういった活動の機会、日常的にできるような、ボランティアの基本的な考え方として、できるときにできることをという形だということもお聞きしていますので、スポーツ振興課で実施しております通常のスポーツ講座については、年間を通じて開催しておりますので、そういう中の講師の補助ですとか、そういったところについても、今後活用が図れば、活動の機会が年間を通して提供できるのかなと考えてございます。

施策の方向の3番の施設の充実に関しましては、体育施設の老朽化については、かなり傷んでいるところもございまして、屋内・屋外を通して補修が必要な状況もございません。

あわせて第1、第2体育館につきましては、建て替え構想が今進んでおりますことから、建て替えの際には地域のスポーツの拠点施設となるような、単なる地域体育館機能ということではなく、越谷市の今後の将来にとってプラスアルファとなるようなスポーツ文化的な機能を持たせた形の中で実現できればと考えております。

○司会 ほかにご意見は。

○高橋市長 東京オリ・パラ大会は、国を挙げていろいろやっているし、越谷市がどれだけそれに参画、また支援することができるか、なかなか難しい面もあるんだけど、関心は高まっているから、それをどうやって受けとめてやっていくかが大事だと思うので、それはよろしくお願ひしたいと思います。

今、越谷もスポーツ、レクリエーション宣言都市をしてからもう44年ですかね。高齢化しているよね、スポーツ・レクリエーション。高齢化しても元気で参加しているんだったらいいんだけど、若い人の参加が少なくなって、グラウンドゴルフもかつて始まったころは60歳そこそこであったのが、今70、80歳だもんね。グラウンドゴルフも、子供を取り入れたり、小学生を取り入れた大会、地区対抗もやっている。徐々にではあるんだけど、進んでいってはいらぬと思うんだけどね。

これは、中年の人たちのスポーツの参加、これをどう捉えていったらいいのかなと。若い人のスポーツやレクリエーションに取り組む姿勢というのはどうなのか私自身も把握し切れぬというのが率直な気持ちだね。

学校は学校でクラブ活動は依然として一生懸命やっただけでありますが、これもやり過ぎだとか週2日は休めとか、一方ではブレーキがかかるような方向が出ているんだけれども、大学を卒業したスポーツマンはその後どうしているんだろうね。その辺の動向が分からないんだけれども、どこで調べたら分かるかね。

○吉田教育長 大きくは世論調査をとらないといけないのでしょうけど、単体で見ると、例えばある種目のそういう運動団体を見ると、循環が非常にうまくいっているところもあります。例えば子どもたちを中心に教えていて、その子どもたちが育って、あるいは親となって、また子どもがそこに入ってくる。その親がその支援に回るといようなサイクルができていたり、あるいは指導者として帰ってくるというような循環が図られている団体もあることはあります。ただし少ない。やっぱり高齢化しているところが多いので、これは団体の長に聞いても非常に大きな悩みの一つになっております。

最近では、それだけたくさん集まっていつまでも元気でいるということはいいんだというふうに居直ったところもありますけれども、なかなかこれは言うは易しで、行うは難しというところがあって、非常に問題が多いなと思っているんですが。

○八木下スポーツ振興課長 今、教育長が言ったのは、多分バドミントン連盟さんなのかなと思うんですけども、やはりその連盟の中でジュニアから高齢者までが連盟会員として、その中で世代別の大会をやることによって、親子で同じ大会に参加して、という形式の大会もある。

連盟の加盟人数とか運営方法によっても、競技によっても若干違うのかなあとは思いますが、市長さんが言われたように高校までは普通にやっていた方が急に運動をしなくなるという時代の中で、世論調査等でもそういった20代、30代、40代のスポーツをやっている率というのが年々減ってきているということでは、就職をして、環境になれるまでというか、やはり忙しい中で、今までやっていたスポーツの環境と時間の調整ができないと、そういった中で団体スポーツがやりにくい状況はあるのかと。

そういう年代を含めて、今後結婚をして家庭を持ったりだとかとすると、やはりまた別の要因でスポーツをやる機会がだんだん少なくなってくるのかなというような、想像の域になってはしまうんですけども、若い職員に聞きましても、逆に個人でできるスポーツジムとか、そういったところへのスポーツをやりに行く機会については、昔の私たちの世代の人間よりも圧倒的に今の若い方は多いみたいです。いざ、昔自分が野球やっていた、サッカーやっていた、だからもう一回やりたくなくて、じゃあさてどこへ行こうかなといっても、当時やっていた仲間がみんな時間の都合が合わないの、団体ス

ポーツはやりにくくなっているという話は聞きます。

それなので、なかなか学生時代やっていた同種のスポーツを継続してやっていくということに関しては、団体スポーツについてはかなり難しくなってくるのかなと。かといって、例えば少人数でできるような、卓球ですとかバドミントンですとか、あとは個人でできるスポーツジムについては、比較的若い子の利用が多いというのは聞いております。

○高橋市長 スポーツに限らずだろうけれども、世代間の断絶がこういうスポーツの団体にも入り込んでいるんじゃないかという懸念をするんだけど、どうやって取り込んでいくというとおかしいけれども、持っている技量とか才能を生かしていくかと。やっぱり指導者が不足しているのかなという感じもあるんだけど、どうなんだろうね、指導者の関係は。

体協、レク協でも、本当に固定化して高齢化しているということで、会合のたびに聞くんだけど、まず正直に甘んじていたんではだんだんと衰退していきただけだと思う。見るスポーツだけに行っちゃうのかなと。今はプロ化しているから、バスケットも今度、越谷アルファーズになっていまして、T. T彩たまの卓球もプロ化しているから、そういう意味では新たな光だと思うんだけど、私はスポーツは見るのも結構だけれども、やるのがスポーツだと思っているんだけど、なかなかそれが進まない。

施設は多分にあるよね。だから、あとはどうやってリーダーが呼びかけていくかということだと思うんだけどね。

地区のスポ・レク事業は、もう手いっぱいだというので、大分悲鳴上げている面もあるんで、今度はバレーボールに変えてグラウンドゴルフにするんだっけ。

○八木下スポーツ振興課長 市民体育祭がバレーボールに変えて、今ビーチボールの大会になっているんで、地区も徐々にシフトはしていっています。

○高橋市長 グラウンドゴルフは新たに取り入れるのか。

○八木下スポーツ振興課長 グラウンドゴルフについては、多分今、地区対抗が市民体育祭の種目になっているんで、各地区についてもほとんどの地区が実施していると思います。

○高橋市長 やっぱりあれも若い人が少ないんだな。

○八木下スポーツ振興課長 逆に言うと若い人は出られない。要は高齢者も競技者数が多くて、年齢を下げると競技できなくなってしまうということで、下げられないと言っていました。年齢を本当は50代ぐらいから認めてあげたいんだけど、そこまで認めてしまうと今度大会運営ができなくなってしまう。

○高橋市長 参加者が今は多いんだな。

○八木下スポーツ振興課長 地区レベルでそうなる。

○吉田教育長 私が見てる分には、やっぱり親子でできるもの、これには30代、40代のお父さん、お母さんが一緒に来ますので、有効かなあと思っているんですね。ベッドタウンで疲れて帰ってきて、さあスポーツというのは、なかなか言うは簡単なんですけど難しい状況があつてですね。

何でそういうふうにしたかという、なわとび大会というのをやっているんですが、そこで親子で縄跳びやってやっているんですよ。子供がお母さん、お父さんをつかんで一緒に跳ぶんですけど、あれを増やしたらどうかということで、その枠を増やしてくれたら、今2,000人ぐらいですね。

○八木下スポーツ振興課長 今、ほぼ全校参加していただいている。なわとび大会に向けた練習も学校の朝の時間等をつくっていただきながらやっていただいているので、そうすると子どもと縄跳びぐらいであればと、親も一緒になって練習をしていただくと大会に出られると。

そういう親子参加型のバドミントンにしてもそうですし、縄跳びなどはやはり若いお父さん、お母さんには結構参加しやすい。

○吉田教育長 そういうふうな取り組みを各団体でもらえると。

バドミントンの連盟の会長さんに話を聞いたりすることもあるんですけど、親になると子供に対して下手だとか何とかと言うらしいんですけど、そうすると連盟の会長さんは自分がやって見せた方がいいと親にやらせるらしいんです。親はやる中で、ああやっぱり難しいと気がついて、指導の言い方も変わってくるというようなこともあつて、そういうふうによく親子でやらせて取り組むという形をつくっているような気がするんですけど、市長さんがおっしゃるようなそういう指導者の考え方によって、その団体が活性化を図れるかどうかということの鍵も見えてくるのかなあと思いますね。じゃあどうするんだと言われるとなかなかうまくいかないですが。

○高橋市長 それが課題かな。

○吉田教育長 はい、課題ですね。

○司会 ほかにいかがでしょうか。

〔「なし」と言う人あり〕

○司会 よろしければ協議事項(1)の意見交換につきましては、以上で終了とさせていただきます。

最後に市長から一言お願いいたします。

○高橋市長 今日、教育委員会のみなさんからご意見等をいただきましてありがとうございました。

本日の会議を通じて、高齢化による課題も見えたように感じます。

私どもは、予算を預かっておりますから、施設の整備を中心としたしっかりとした教育上必要な事柄については、できる限り対応していくように、教育委員会の教育長をはじめとしたご意見を、十分受けとめて対応していきたいと思っております。

教育の内容について、いつも私は先生方に期待をしておるものでございます。問題が起こってからでは遅いわけですから、問題が起こらないように事前からしっかりと取り組みをお願いしたいということを感じております。教育の内容につきましては、先生方に期待をしておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

○司会 次に、協議事項(2)その他に移らせていただきますが、皆様方から何かございませんでしょうか。

〔「ありません」と言う人あり〕

○司会 それでは、以上で本日の協議事項は全て終了をいたしました。

最後に、事務局から今後の予定等について報告をさせていただきます。よろしくお願ひします。

○事務局 長時間にわたりましてお疲れさまでございました。

本日の第1回総合教育会議の議事録につきましては、市のホームページの掲載により公表をしております。今後の総合教育会議の開催につきましては、次回日程が決まり次第、ご連絡をさせていただきます。例年ですと来年の2月ぐらいを目途として開催を予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。以上でございます。

○司会 以上をもちまして本日の総合教育会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。